
武神の軌跡

Posuto

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

武神の軌跡

【Nコード】

N4919G

【作者名】

Posuto

【あらすじ】

ある事件によって記憶に欠落のある少年トラ。平穏無事に日々を生生活をしていたが、一人の転校生の少女との出会いがトラの日常を揺るがす。学園ファンタジー

登場人物など

『登場人物』

・小島虎重こじま とらしげ

主人公。男。1年生。通称トラ。性格はいたって温厚。完全に名前負けしている。

4年前に起こった空港テロで記憶の一部が欠落している。現在は霧島家に居候中。

・銀華ぎんか

猫又。女、というかメス。精神波を伝えることで人と会話できる。古めかしい言葉を使う。

トラ以外には滅多に精神波を送らないため、ほとんどの人はただの猫と思っている。

銀色の美しい毛並みを持つ美猫。

・竜宮竜騎たつみや たつき

女。転校生。通称タツキ。代々、魔と戦ってきた竜宮家の長女。刃物の扱いが異常にうまい。長身に人を睨んでいるような目つき、黒髪のポニーテールがちょんまげみたい。

・亀平甲助かめひら こうすけ

男。1年生。通称コウ。メガネを着用。見た目通り、几帳面、超マジメ。メガネを外すと超イケメン。

トラの友人。

かけているメガネはハイテク技術の塊、マルチグラス多機能眼鏡。

・鳳羽子おおとり はねこ

女。2年生。通称ハネコ。腰まである艶やかな黒髪と人形のような美しい顔立ちを持ち、校内には多くのファンがいる。実際はとも腹黒い。

きりしま さくら
・霧島桜

トラが居候している霧島家の長女。3年生。性格は傍若無人。トラを振り回す爆弾姉。

きりしま かえで
・霧島楓

霧島家の次女。とても優しく、守ってあげたくなるタイプ。爆弾姉に振り回されるトラを心配する、天使妹。

・霧島 戒月

桜、楓の祖父。トラの実質的保護者。ク라마山の天閃神社の神主。

~~~~~

・魔

気やマナといった万物の根源の悪循環によって現れる災害。悪霊、  
ファントム  
妖霊、悪魔、などの害獣。

## 第一話：トラの朝

朝の気配を感じ、思考が徐々に覚醒する。

目を開けると、見慣れた白い天井が見える。

上半身を起こし、時計を見ると、午前6時をさしている。

僕は基本的に目覚まし時計を使わなくても起きられるタイプだ。

布団から出て、朝の気温に身を震わせながら、トレーニングウェアに着替える。

「今日も行くのか？物好きだの」

僕の同居人が眠そうに言った。厳密には『人』ではないが……

「おっと、悪い。起こしたか？」

「僕はまだ寝る。飯ができたら起こせ。」

そう言っ僕の布団の奥に潜り込んで行った。

二階の部屋から出て、一階へ。

洗面所で、軽く顔を洗い、家を出る。

春になったが、朝はまだ冷える。準備体操をして、走り始める。

毎朝のランニングは、4年前からの習慣だ。

昔は辛かったが、今はそうでもない。

家の近くのタカトリ川の河川敷沿いを走る。

「おはよう、少年。今日も元気じゃな。」

いつも河川敷を散歩しているおじいさんだ。  
挨拶を返し、さらに進む。

橋が見えてきた。タカトリ川をまたぐタカミネ橋。

橋は真ん中が破壊されていて向こう側に渡れないようになっている。

向こう側・・・そこには廃都がある。

廃都とは、僕が生まれる前に起きた『キンキ大災害』によって『魔』  
があふれ、滅んだ場所だ。

今でも再建されずに残っている。

橋のたもとで折り返し、家に戻る。

家に着いたらまずは、汗を流し、制服に着替える。

次に朝食の準備だ。

居候の身であるため、これぐらいしなくては！！

と、言うより居候先である霧島家の人々はみんな朝に弱い。

必然的に朝食の準備は、僕の役割となる。

準備と言ってもパンを焼くとか簡単なことだ。

僕はなぜか刃物の扱いが異常に下手だ。

だから包丁を使うメニューは作れない。

というわけで卵でオムレツ、昨日の夕食の残りの野菜でサラダを準備。

さて、あらかた準備できたので霧島家の皆様を起こしに行こう。

~~~~~

二階に上がり、僕の部屋の隣へ。

霧島家の長女、桜の部屋だ。

僕の一年以上。

ノックをせずドアを開ける。

この時間にノックなんてしても反応がないのはわかりきってる。

あつたら、その日は槍の雨が降る。

部屋は奇麗に整頓されており、なんだか良いにおいがする。

部屋の端のベッドには、すさまじい寝相で栗色の髪の女の人が寝ている。

布団は蹴り飛ばされ、ベッドからずり落ちている。

大の字でガーガーいびきをかいている女の方は、タンクトップに下着のみというかなりエロイ格好だ。

寝ている顔は普段よりも幼く見え、とても綺麗だ。

うん、わざわざ起こしにくる甲斐があるな〜と思う。

起こすか・・・いろいろ面倒だが。

まずはカーテンを開け、日の光を入れる。こんなことではびくとも

しない。

次にベッドを蹴る。おもつきり。

ガツンッ

と音が鳴るが、起きない。

はぁー……とため息をつき、

「おい、ねーちゃん！！起きろっ！！」

と、結構な音量で起こす。

そして体をぐらぐら揺らす。それでもかた揺らす。

揺らす勢いに合わせて豊かな胸もぐらぐら揺れて、絶景である！！

ここでようやく、うつすらと目が開いた。

「起きろよ！！遅刻するぞっ！！」

「あー……わかった。起きようか……なー……」

「寝るなよ！！」

「うー……あー……よしっ！！起きた！！オラアッ！！」

最後のは、起きざまに僕に向かって蹴りを出しながらの掛け声だ。僕の太ももに素晴らしいローキックが炸裂した。それほど痛くないので、くらってやる。

「いてっ……わざわざ起こしに来てあげてるのに、ひどい仕

打ちだ!!」

「ありがとうの意味を込めての蹴りだよ。感謝しなさい」

感謝はしない。

次々いかないと……

またその隣の部屋。

霧島家の次女、楓の部屋。

当然ノックせずに突入。

そこは、異界と言えればいいのか、すさまじい光景が広がっている。

ぬいぐるみだ。すさまじい量の。

ここまであると少し怖い。何か見られてるみたいで落ち着かない。

カーテンを開け、ベッドを見ると、ひときわ大きいクマのぬいぐるみを抱いて寝る小柄な少女がいる。

このクマが無駄にリアルで、僕にはかわいいとは到底思えない。確か名前が源五郎とか言ってたな……渋い名前だ。

起こさないといけないのだが……かわいいな。寝顔が天使だ。

もし目の前にカメラがあれば、僕は躊躇なくシャッターを押すだろう!!

断言できるね!!

とにかく起こそう。

ゆっくり揺らす。乱暴な姉相手のように、ぐらぐら揺らしたりしない。

「かーえーでー、起きろー。おーい」

「む．．．んー．．．なにい？」

「朝だぞー。起きないと、くすぐるぞー。いいのか？」

「うー．．．わかった．．．起きるー．．．」

目をこすりながら、楓は身を起こす。

その仕草もまたかわいらしい。

この前悶絶するほど、くすぐって起こしたのが効いてるのか、すぐに起きた。

「先に下行ってるから、ちゃんと準備して来いよ。」

「はーい。」

良い返事だ。

さて、最後は霧島夫妻か．．．

一階に下りて、夫妻の寝室に向かう。

ドアを開けて、ベッドを蹴飛ばす。

「お・き・な・さ・い!!」

五発の蹴りと共に言う。この二人はこれぐらいしないと起きてくれない。

「おはよー……トラ君……先に食つといて。」

「おはよー……でも私、まだ寝る……」

夫妻の寝ぼけ声が聞こえた。

家長である夫、霧島樹きりしまいつきは何の仕事をしているのか、よく分からない。不定期に家に帰ってくるし、出張も多い。

話を聞いている限り、おそらく公務員だと思う。

妻である霧島葉子きりしまようこは、専業主婦なのだがいろいろ秘密が多い。

たまに家を開けるし、言葉使いが恐ろしいほど荒っぽくなる時がある。

一番の秘密は年齢だ……葉子さんは、人妻とは思えないほど若く見え、美人なのだ。

一度聞いてみたら、にこやかにはり倒された。

この二人が起きてこないのはいつものことなので、このまま放置。リビングに向かう。

~~~~~

僕がリビングでパンを焼いていると、二人が制服姿で二階から降りてきた。

桜は僕と同じ『シンキ武帝高校』の制服だ。

楓は『セイラン学園』というお嬢様中学の制服だ。

「おはよー、トラ・・・って今日もパン？たまには朝から白い飯と味噌汁が食いたいなー」

「おはよー、お兄ちゃん。私はパンの方が好きだから今のままで良いよ。」

「おはよう、二人とも。ねーちゃん、文句があるなら、白飯に卵ぶっかけて食え。」

相変わらず文句の多い姉だ。

僕も一緒に食べる。

桜は文句は言うがやたら食う。  
パンを二枚たいらげた。

食べ終わったら食器を流しにつけて、部屋にカバンを取りに行く。

ベッドの中のねぼすけを起こす。

「銀華、もう学校行くからな！朝ごはんは下にあるから、食っつけよ！」

「わかった。気をつけて行け・・・後で追い付く。」

布団の中から銀色の毛並みを持つ猫が現れた。  
同居人も同居猫だ。

ぐーっと背筋を伸ばして伸びをしている。

もちろんタダの猫ではない。

『猫又』と呼ばれる、『魔』の影響を受けた進化種だ。  
結構長い付き合いだ。

「トラー、速くしないと先行くよー！」

下の階から呼ぶ声が聞こえる。

「じゃあ、行ってくるよ。」

「うむ、行つてこい。」

意味もなく偉そうなのはいつものことだ。  
さっさと下に降りる。

「おそいつ！！後で、けつバットね。」

「いやだ。楓は？」

「もう行つたよ。あんたがちゃんたらしてるからー。」

さっさと靴をはき、桜と共に家を出る。

「「「いつてきまーす。」」」

僕と桜は霧島夫妻に言つつもりで、大きな声で言う。  
返事はない。まだ寝てるだろう。

~~~~~

学校へ向かう。

それほど遠くはない。
徒歩で20分程度だ。

春になり、桜の花が咲く並木道を学校に向かって歩く。

「トラはもう模擬戦やった？」

「んー一回だけ。みんなの力量を図る感じの、軽いやつ」

「あんたホントに無手で行くの？」

「姉ちゃんだって俺が刃物からつきしなの知ってるだろう？」

「まあね。絶望的じゃないよねー」

分かってるんならたまには朝の食事当番を変わってもらいたいものだ。

学校に近づいてきたので、自分と同じ制服の人が増えてきた。

「お！ゆかつぺだ！じゃあねートラ」

「あーい」

桜は友人を見つけたようで、走って先に行った。

それを見送りつつ、ゆっくり歩く。

まだ時間的には大丈夫だ。

前に歩いている友人を見つけた。

それなりに人がいるのに、まったくぶつからず本を読みながら歩いている。

器用だよな、あれ。

近づいて声をかける。

「おすつ、コウ。おはようさん」

「・・・・・・・・・・」

無視？

朝から僕は大変傷ついた。

「ああ・・・いたのかトラ。おはよう・・・どうかしたか？」

なんでもないです。

時間差挨拶ですか？

この本に夢中の少年は、かめひいらぎすけ亀平甲助。通称、コウ。
メガネをかけた知的クール男前。

そのかつこよさが妬ましいぜ！！

中学からの友人だ。

見た目通り、成績優秀。

テスト期間はすぐくお世話になりますね。

「今日は何の本？」

「歴史だ。古代レキサレア時代の生活様式について」

「へー……おもしろい？」

「ああ」

そんな会話をしながら、学校に向かう。

今日も平和に時間が進む。

~~~~~

60年前、戦争があつた。

ヤマトとユーロシアなどの同盟国、対、春煉共和国とガラジベ帝国などの連合国の戦争だ。

その戦争は『第二次魔法大戦』と呼ばれている。

この戦争はすぐに終結した。ある出来事が戦争を終結させた。

大量の『魔』の発生である。

『魔』とは氣（世界標準はエーテルと呼ぶ）のバランスの崩壊から生まれる。

帝国が使用した大規模魔法兵器『バベル』によって世界のエーテルバランスが崩れた。

これにより各国に大量の『魔』が発生。戦争どころではなくなってしまった。

『魔』に対抗するために各国は以前から存在していた対魔組織を強化した。

そして60年たった現在、次代の対魔の戦士を養成するべく教育機関が設立されている。

ヤマト帝国に存在する僕の通う学校『シンキ武帝高校』もその一つである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4919g/>

---

武神の軌跡

2010年10月9日04時29分発行